



避難訓練



今年度二回目の避難訓練を行いました。今回は「地震発生後、火災が発生した」という想定で、予告なしで昼休みに実施しました。子どもたちは、突然の非常ベルに少し驚きながらも、指示に従って素早く身を低くし、命を守る行動をとりました。また「避難開始」の合図で速やかに第三校庭に避難することができました。高学年は、低学年の手を引くなど、「互助」「共助」を実践する姿が見られました。全体会では、地域防災マネージャーさんから講話をいただきました。「おかしもち」が実践できたか振り返りました。災害はいつどこで起こるか分かりません。日ごろからの備えの大切さを学ぶことができました。



文責 本宮小校長 佐久間仁

学習発表会を終えてV

◇学習発表会を終えて、私がこれまで学んできたことは、二つあります。一つ目は、みんなの力を合わせれば、大きな力になるということです。ゆうとさんのセリフは本当だと思ったし、いい発表会になったからうれしかったです。二つ目は、声が出ていたということですね。みんなの力を合わせて、歌は大きな声になったし、げきやセリフもいろいろなふうができてよかったです。これまでに学んできたことを、これからもういかしていきたいと思います。(四年 環奈)



交通安全作文

(コンクール入賞作品)



小さないのちをまもる

三年 酒井星斗奈

毎日、テレビの中で、かならずながれる、交通事故の悲しいニュース。どうしてもいつも事があるのかな、どうすれば事にならないかったのかな、と考えることがありました。わたしは、保育所や小学校などの交通安全教室で、きけんな事や自分のいのちをまもる大切さを学び、考え

るときがありました。そんな中、わたしは小学二年生の時に体けんした出来事について話そうと思います。

学校帰りに、母と家の近くのお店で買い物をしている時、わたしの妹より小さい男の子がお母さんと買い物をしているのを見かけました。男の子は、元気でかわいい子で、わたしの母と、

「元気な子だね。」

と話していたことをおぼえています。母と買い物をおわらせて会計がおわり、ふくろに物をつめていた時です。ふととなりを見ると、その小さい男の子のお母さんがレジで会計をしているところでした。男の子のお母さんは、会計に集中していて、男の子がかってに店の外へ行こうとしていることに気づいていませんでした。そして、男の子は、お母さんが気づかないうちに、かってに店の外へ出ていってしまったのです。このままでは、男の子が車にひかれてしまうかもしれない、誰かに連れていかれてしまうかもしれない、とこわくなりました。

わたしは、母に何も言わず、いそいで男の子をおいかけていきました。男の子は、もうお店の外にいて、もう少しで道路に出てしまうところでした。わたしは、「あぶないよ。お母さんは、まだお店の中だから、もどろろね。」

と声をかけ、男の子をだっこして、お店の中へ連れていきました。男の子のお母さんが気づき、男の子のお母さんは、わたしに、

「ありがとう。」

とおれいを言ってくれました。わたしは、助けてよかったと思いました。何日かたった後でした。学校に、男の子のお母さんから、助けてもらったおれいの電話があったようで、校内放送で、「お店をたび出した男の子を助けた女の子がいる。」との話がありました。放送を聞いて、わたしのことだと思いました。わたしは、助けてよかった、いいことをしたなと感じて、とてもうれしい気持ちになりました。あの時、もしわたしが気づかずにいたら、男の子はけがをしたかもしれないと思うと、悲しい気持ちになります。

わたしのいのちだけでなく、わたしが気づくことで助けられるいのちもあるということを、体けんから学ぶことができました。一人ひとりが気をつけることで、助かるいのちがあることも分かりました。一人ひとりが気をつけて、事このない世界になることをねがっています。

※星斗奈さんの行動は素晴らしいです。なお作品は、南達交通安全大会(十一月十五日サンライズもとみや)で表彰される予定です。入賞誠にありがとうございます。

